



〒975-0031
福島県南相馬市原町区錦町一丁目 30 番地
TEL:(0244)26-1315
FAX:(0244)26-1318
E-mail:sousou.kyouiku@pref.fukushima.lg.jp

令和 8 年度 ふくしまの未来をひらく読書の力 プロジェクト 読書活動支援者育成事業相双地区研修会 (8/19)

8月19日(水)に子どもたちの読書推進と読書ボランティア等のスキルアップを目指し、読書活動支援者育成事業相双地区研修会を開催しました。

東日本大震災の教訓や関連書籍の紹介をはじめ、言葉を届け、想像力を育み、世代を超えて「大切な記憶や想い」をつなぐ紙の絵本がもつ力についての講演を通じ、未来へ語り継ぐ選書と読書活動のあり方を学びました。

請戸小学校の教訓を未来へつなぐ

東日本大震災の際、海岸から約 300 メートルの請戸小学校で児童全員を高台へ避難させ、命を守り抜かれた佐藤先生。その実体験をもとに「大丈夫」という油断を捨て、過去の経験則にとらわれず「想定外」に備える日常の防災意識の大切さを語っていただきました。

また、絵本を活用して教訓を次世代へ伝える重要性についてもお話しいただきました。

浪江町立なみえ創成小学校
佐藤 信一 氏



震災を伝える絵本

～絵本を通して、記憶と願いにふれる～

避難体験や被災地の変化を描いた絵本・写真絵本をご紹介いただきました。

絵本を通じて被災者の思いや地域の変化を学ぶとともに、絵本を使って楽しく日常の防災意識を高める工夫についてもお話しいただきました。



南相馬市立中央図書館
佐藤 真紀 氏

デジタル時代の今こそ、紙の絵本を

デジタル時代における「紙の絵本」がもつ温かな役割についてお話しいただきました。

ページをめくる間隔が想像力を育み、手渡す動作を通して世代を超えた記憶や文化が共有されること、そして声を通した読み聞かせが深い対話を生み出すことを学びました。

また、形ある本だからこそ、震災の記憶や歴史を未来へ確実に継承できるということもお話しいただきました。



株式会社瑞雲舎 代表取締役
井上 みほ子 氏



【参加者の感想】

- 震災伝承、年数がたってためられることもあったのですが、伝え続けることが必要だと確認しました。紙の本の必要性を改めて認識しました。
- 1つの絵本から、作り手、読み手、聞く人、色々な人がつながっていることを思うと、胸が熱くなりました。
- 紙の絵本を子どもに手渡す、触れさせることにとても意味があるということに改めて気づかされました。これからも本と触れ合える仕事を大切にしていきたいです。

教訓や本に込められた想いは、人の声を介して手渡されることで未来へつながれます。

デジタル化が進む今だからこそ、紙の絵本や書籍がもつ温もりと想像力を大切に、地域全体で子どもたちの豊かな心を育みながら「大切な記憶や想い」を未来へと語り継ぐ読書活動を推進していきましょう。

